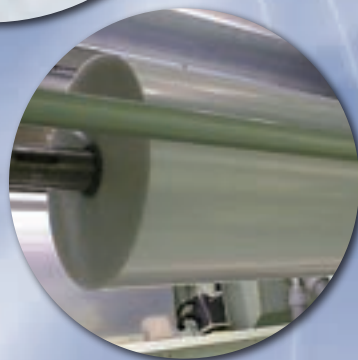


第100期 第2四半期 株主通信

2019年1月1日から2019年6月30日



夢がある。技術がある。未来ができる。



大倉工業株式会社

証券コード 4221

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

「第2四半期株主通信」を皆様にお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

代表取締役社長

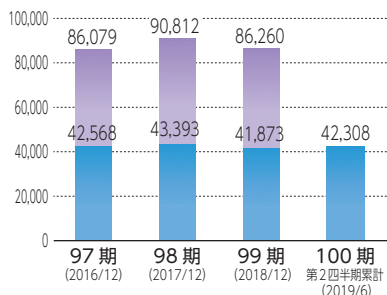
神田 進



売上高の推移

(単位:百万円)

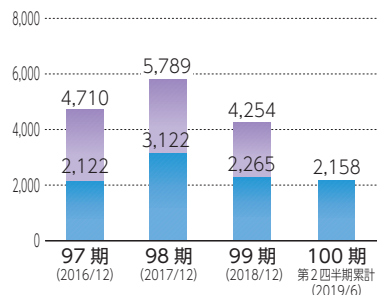
連結：■ 通期 ■ 第2四半期累計



営業利益の推移

(単位:百万円)

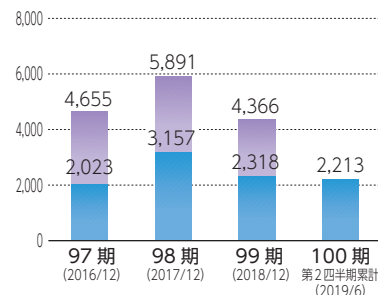
連結：■ 通期 ■ 第2四半期累計



経常利益の推移

(単位:百万円)

連結：■ 通期 ■ 第2四半期累計



当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、堅調な国内需要や所得環境の改善が続きましたが、中国経済の低迷など海外環境が悪化した影響により、景気に足踏み感が見られました。また、米国や中国の動向などに影響される世界経済の不確実性や、人手不足による人件費上昇などのリスクは変わらず、先行きは不透明な状態が続いております。

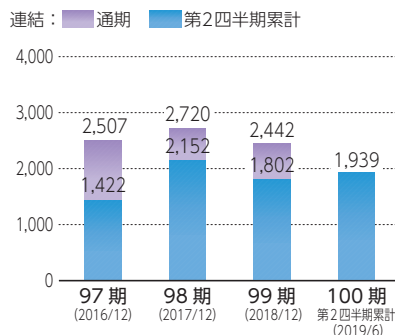
このような状況のもと、当社グループでは、新規材料事業において前年同四半期に大きく受注が減少していたスマートフォン向け製品の受注が当期は一部回復したことなどにより、当第2四半期連結累計期間の売上高は423億8百万円(前年同四半期比1.0%増)となりました。

利益面では、売上高は増加したものの、新規材料事業における大型液晶パネル向け製品の受注が当期首より大きく減少したことなどにより、営業利益は21億5千8百万円(前年同四半期比4.7%減)、経常利益は22億1千3百万円(前年同四半期比4.6%減)となりましたが、親会社株主に帰属する四半期純利益はホテル事業におけるオークラホテル高松の固定資産売却に伴う固定資産売却益を計上したことなどにより、19億3千9百万円(前年同四半期比7.6%増)となりました。

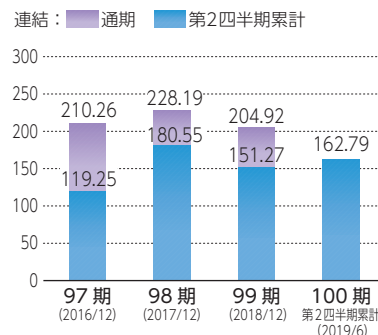
株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご指導を賜ります様お願い申し上げます。

2019年9月

親会社株主に帰属する純利益の推移 (単位:百万円)

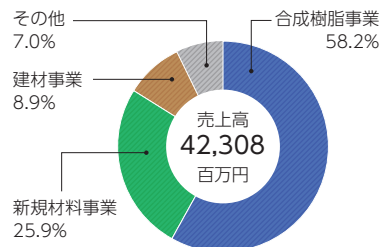


1株当たりの純利益の推移 (単位:円)



(注) 2018年7月1日を効力発生日にして普通株式5株につき1株割合で株式併合を実施しております。このため97期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純利益を算出しております。

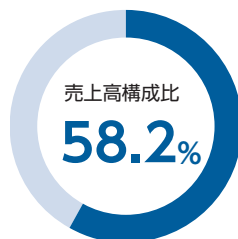
事業別第2四半期累計売上高構成比(連結)



※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

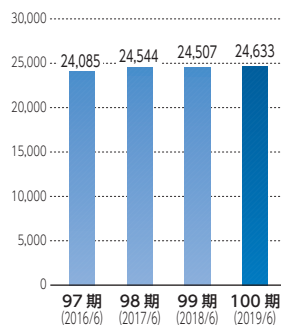
第2四半期累計期間事業別概況(連結)

合成樹脂事業

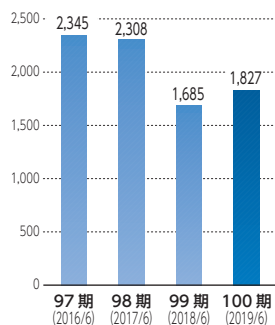


シュリンクフィルムを中心に販売が堅調に推移したこと、前年より原材料価格等のコスト上昇分について、製品価格への転嫁を進めたため、売上高は246億3千3百万円(前年同四半期比0.5%増)となりました。営業利益は、大型設備投資に伴い減価償却費が増加したものの、前年に実施した製品価格への転嫁により、18億2千7百万円(前年同四半期比8.4%増)となりました。

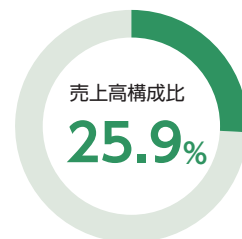
売上高の推移 (単位:百万円)



営業利益の推移 (単位:百万円)

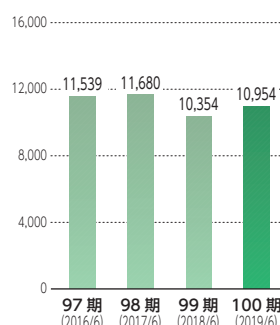


新規材料事業

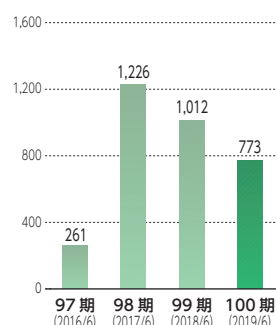


前年同四半期に大きく受注が減少していたスマートフォン向け製品の受注が当期は一部回復したこと、ウレタンフィルムや接着剤等の機能材料において新製品の拡販が進んだことなどにより、売上高は109億5千4百万円(前年同四半期比5.8%増)となりました。一方、営業利益は大型液晶パネル向け製品の受注が当期首より大きく減少したことにより、7億7千3百万円(前年同四半期比23.6%減)となりました。

売上高の推移 (単位:百万円)



営業利益の推移 (単位:百万円)



建材事業

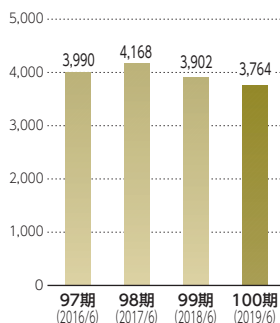


売上高構成比

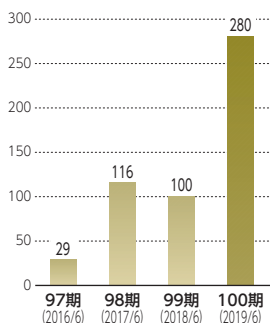
8.9%

パーティクルボードがフロア関連向けに販売数量が伸びたものの、南洋材合板化粧板及び不燃化粧板について、カタログ製品の販売を終了したことにより、売上高は37億6千4百万円(前年同四半期比3.5%減)となりました。営業利益は、パーティクルボードの生産が順調だったこと、歩留りの改善に努めたことなどにより、2億8千万円(前年同四半期比178.6%増)となりました。

売上高の推移 (単位:百万円)



営業利益の推移 (単位:百万円)



その他

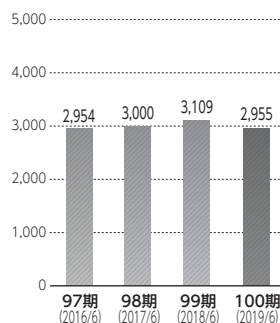


売上高構成比

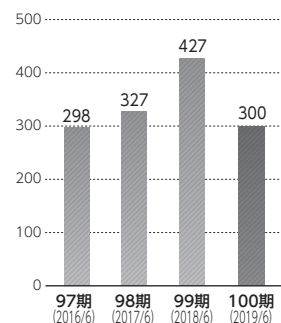
7.0%

木材加工(プレカット)事業並びに宅地造成及び建物建築事業の販売が好調であったものの、ホテル事業におけるオークラホテル高松の固定資産売却に伴い売上が減少したことなどにより、売上高は29億5千5百万円(前年同四半期比4.9%減)となりました。営業利益は、情報処理システム開発事業における固定費の増加などにより、3億円(前年同四半期比29.7%減)となりました。

売上高の推移 (単位:百万円)



営業利益の推移 (単位:百万円)



※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

第2四半期連結財務諸表

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表の要旨

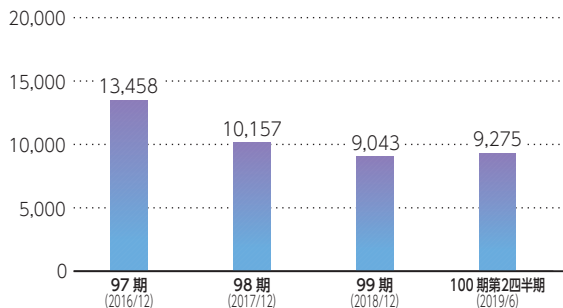
(単位：百万円)

科 目	99期末 2018年12月31日現在	100期第2四半期末 2019年6月30日現在
資産の部		
流動資産	43,567	42,532
現金及び預金	7,431	6,911
受取手形及び売掛金	23,057	22,423
電子記録債権	3,633	3,538
商品及び製品	4,198	4,615
仕掛品	971	943
原材料及び貯蔵品	3,421	3,479
販売用不動産	187	234
その他	669	385
貸倒引当金	△3	△0
固定資産	41,043	40,081
有形固定資産	31,209	30,872
建物及び構築物	14,259	13,935
機械装置及び運搬具	6,370	8,318
土地	6,037	5,991
建設仮勘定	3,926	2,067
その他	615	559
無形固定資産	609	587
投資その他の資産	9,223	8,621
投資有価証券	7,679	7,140
繰延税金資産	936	875
その他	611	608
貸倒引当金	△3	△3
資産合計	84,610	82,613

科 目	99期末 2018年12月31日現在	100期第2四半期末 2019年6月30日現在
負債の部		
流動負債	34,052	32,104
支払手形及び買掛金	16,878	16,227
短期借入金	5,130	6,357
1年内返済予定の長期借入金	1,978	1,936
未払金	5,037	3,358
未払法人税等	432	163
その他	4,595	4,060
固定負債	6,723	5,756
長期借入金	1,934	981
退職給付に係る負債	3,811	3,833
その他	977	941
負債合計	40,776	37,860
純資産の部		
株主資本	41,811	43,094
資本金	8,619	8,619
資本剰余金	9,068	9,068
利益剰余金	24,985	26,270
自己株式	△861	△863
その他の包括利益累計額	2,010	1,644
その他有価証券評価差額金	2,155	1,775
為替換算調整勘定	163	158
退職給付に係る調整累計額	△309	△289
非支配株主持分	11	13
純資産合計	43,834	44,752
負債純資産合計	84,610	82,613

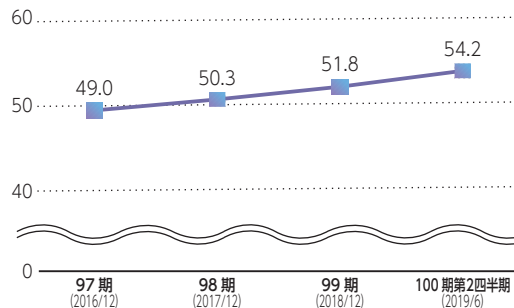
有利子負債の推移

(単位：百万円)



自己資本比率の推移

(%)



■ 連結損益計算書の要旨

(単位: 百万円)

科 目	99期第2四半期(累計) 2018年1月1日から 2018年6月30日まで	100期第2四半期(累計) 2019年1月1日から 2019年6月30日まで
売上高	41,873	42,308
売上原価	34,994	35,428
売上総利益	6,879	6,880
販売費及び一般管理費	4,613	4,721
営業利益	2,265	2,158
営業外収益	149	144
受取利息・配当金	86	89
雑収入	63	54
営業外費用	96	89
支払利息	66	59
為替差損	7	14
雑損失	21	15
経常利益	2,318	2,213
特別利益	165	191
固定資産売却益	23	191
投資有価証券売却益	142	—
特別損失	58	50
固定資産除売却損	52	50
投資有価証券評価損	5	—
税金等調整前四半期純利益	2,425	2,354
法人税、住民税及び事業税	611	195
法人税等調整額	9	217
法人税等合計	621	413
四半期純利益	1,804	1,941
非支配株主に帰属する四半期純利益	1	1
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,802	1,939

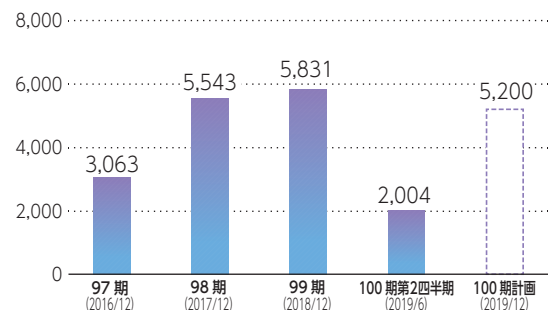
■ 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位: 百万円)

科 目	99期第2四半期(累計) 2018年1月1日から 2018年6月30日まで	100期第2四半期(累計) 2019年1月1日から 2019年6月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,828	3,022
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,808	△3,119
財務活動によるキャッシュ・フロー	△645	△417
現金及び現金同等物に係る換算差額	△9	△4
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,635	△519
現金及び現金同等物の期首残高	8,641	7,431
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,006	6,911

設備投資(工事ベース)の推移

(単位: 百万円)



(注) キャッシュ・フロー計算書は支払ベースで記載するのに対し、本グラフは工事ベースで表示しております。

環境対応型製品

当社グループは事業を通じて環境問題に優先して取り組み、持続可能な社会の実現に向けて貢献することを目指しています。今回、新たに開発した植物由来ポリエチレンを使用したフィルム「ビオナチュレ」と木質廃材を主原料とした「オークラボード®」を紹介します。

【ビオナチュレ】

植物由来のポリエチレン（バイオマスポリエチレン）を使用しています。化石資源を掘り起こす必要がある石油由来のポリエチレンとは異なり、地上にある炭素が「植物」→「プラスチック」→「CO₂」→「植物（CO₂の吸収）」の流れで循環されますので、CO₂排出削減に貢献します。

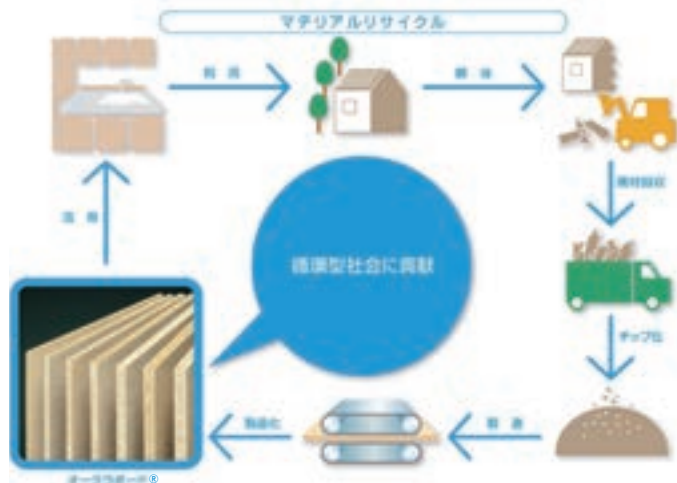
ビオナチュレはゴミ袋やファッションバッグなど、様々な用途に採用されています。



【オークラボード®】

当社は1971年から半世紀近く、オークラボード®を生産しています。木質廃材を主原料とするオークラボード®は新たに木を伐採せずに作ることができるので、森林資源の保護にも役立っています。

さらにオークラボード®は木質廃材を焼却してエネルギー源を得るサーマルリサイクルに対し、木質廃材を再資源化し、製品としてリサイクルすることでCO₂排出を抑制します。



地域社会への貢献

当社グループは事業を通じての社会貢献を目指す一方で、様々な形で地域貢献活動に取り組んでいます。今回はその一端として丸亀城修復への寄付や地域イベント等に当社グループ従業員がボランティアとして参加している例をご紹介します。

【ボランティア活動】

丸亀お城まつり（毎年5月）や丸亀婆沙羅まつり（毎年8月）等の地域のおまつりやイベントに大勢の従業員がボランティアとして参加しています。また、植樹ボランティアにも積極的に参加しています。



【丸亀城石垣修復へ寄付実施】

香川県丸亀市にある丸亀城は、高さ日本一の石垣を有する「石垣の名城」として有名ですが、昨年の豪雨及び台風により、この石垣の南西側が大規模崩落する被害を受けました。丸亀市は「あの美しい石垣をもう一度」のスローガンのもと「石垣修復プロジェクト」を立ち上げ、2023年度の工事完了を目指して修復工事を実施中です。

大倉工業株式会社及び香川県内グループ会社8社は、このプロジェクトに賛同し、修復費用として丸亀市に5,000万円を寄付しました。



南西側石垣が崩落した丸亀城



梶 丸亀市長（左）

寄付を実施したグループ企業

オークラホテル株式会社
 株式会社オークラハウス
 株式会社オークラプレカットシステム
 オークラ情報システム株式会社
 株式会社オークラプロダクツ
 株式会社ユニオン・グラビア
 株式会社オークラパック香川
 大倉産業株式会社

製品紹介

当社グループは様々な分野にソリューションを提供していますが、今回は新規材料事業の「シルクロン®：ペイント・プロテクション用 ウレタンフィルム」をご紹介します。

シルクロン®：ペイント・プロテクション用 ウレタンフィルム

車のボディーは、走行中の飛び石や枝葉の衝突などにより傷がついてしまうものです。

この問題に対し、近年注目を浴びているソリューションが『PPF（ペイント・プロテクション・フィルム）』です。PPFとは、車のボディーに貼り付けて塗装面を保護するフィルムです。

ベース基材は、透明性に優れ、また氷点下の環境においても柔軟性を維持できる、ポリウレタン素材が多用されています。

道路の舗装率が高い日本ではなじみの薄いPPFですが、元々は米軍により軍用ヘリコプターや戦闘機の可動部品を保護するために開発されたものでした。その後、2000年頃に北米で自動車用として採用されたことがきっかけで、市場は欧州・中国・中東まで拡大しました。

当社のウレタンフィルム“シルクロン®”は優れた透明性、光沢性により塗装面の輝きをより効果的に演出するため、出荷量も急増しています。

新規材料事業部は、引き続き、高品質の“シルクロン®”を世界に向けて供給してまいります。



ウェブサイトリニューアル実施

当社ウェブサイトを全面的にリニューアルしました。今回のリニューアルは利用される方々にとってより「見やすく」「使いやすく」を念頭に改良しました。

主な改良点

業績ハイライトを追加する等株主様のお役に立つ情報をより充実

お客様に容易に製品を検索していただけるように用途別や事業部別等検索方法を拡充

当社への理解を深めていただけるよう当社の理念やCSR・ESGの考え方、取り組み状況を新たに掲載

スマートフォンやタブレット端末で閲覧した際に表示画面が最適化となるよう工夫

今後も情報の充実
に努め、特に新製品の発表やCSR活動の進捗などをタイムリーにお伝えしてまいります。



■ 会社概要 (2019年6月30日現在)

社 名	大倉工業株式会社
設 立	1947年7月11日
資 本 金	8,619,616,071円

業 務 内 容

- 各種ポリエチレン製品及びポリプロピレン製品の製造販売
- 光学機能性フィルム等の製造販売
- パーティクルボード及び加工ボード等、加工合板の製造販売

■ 役員 (2019年6月30日現在)

代表取締役会長	高 濱 和 則
代表取締役社長	神 田 進
常務取締役	田 中 祥 友
取締役	上 原 英 幹
取締役	山 田 和 裕
取締役	植 田 智 生
※社外取締役	櫻 井 茂 樹
※社外取締役	馬 場 俊 夫
※社外取締役	北 田 隆
※社外取締役	堀 内 真 二
※監査等委員	

■ 株式の状況 (2019年6月30日現在)

発行可能株式総数	28,021,600株
発行済株式の総数	12,414,870株
株主数	5,593名

■ 大株主(上位10位) (2019年6月30日現在)

株主名	持株数	持株比率
住友化学株式会社	963千株	8.09%
株式会社中国銀行	582千株	4.89%
オークラ共栄会	532千株	4.47%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	394千株	3.31%
株式会社百十四銀行	384千株	3.22%
日本生命保険相互会社	375千株	3.15%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	334千株	2.80%
住友林業株式会社	315千株	2.65%
三井住友海上火災保険株式会社	271千株	2.28%
株式会社ヤクルト本社	251千株	2.11%

(注) 当社は自己株式498,972株を所有しておりますが、上記大株主から除いております。
また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株主メモ

決 算 期	毎年12月31日
定時株主総会	毎年3月
株主確定基準日	定時株主総会 12月31日 (その必要があるときは、あらかじめ公告いたします。) 剰余金の配当 期末配当 12月31日 中間配当を行う場合 6月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031(フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。
公告の方法	電子公告とし、当社ホームページ(https://www.okr-ind.co.jp)に掲載いたします。 ただし電子公告によることができない事故やその他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
上場証券取引所	東京証券取引所市場第1部

住所変更、単元未満株式の買取等のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

夢がある。技術がある。**未来**ができる。



大倉工業株式会社

本社 / 〒763-8508 香川県丸亀市中津町1515番地 TEL 0877-56-1111